

3-13

演題	業務改善に命をかける
副題	～改善源のキャッチ～

改善の目的
目的達成

法人名	社会福祉法人 湘南愛心会
施設名	特別養護老人ホーム 逗子杜の郷

発表者名 (職種)	山下 哲也 介護職員
共同発表者	齋藤 唯一
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	逗子市沼間 1-23-1
TEL	046-870-6800
FAX	046-870-6805
メールアドレス	morinosato-kaigo@tokushukai.jp
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	当施設は2014年5月に逗子市に開設いたしました。JR横須賀線東逗子駅より徒歩7分の緑の杜に囲まれた立地に位置し「地域に必要とされ愛される施設づくり」を目指して、ご入居者様に寄り添う介護を提供する施設運営をしています。
---------------------------	---

研究の目的、PRポイント

職員、ご入居者様と「コロナとどう共存していくのか?!」制限ばかりのマイナス面だけではなく「今できることをやろう!そしてみんな笑顔で過ごそう」をキャッチコピーにし「コロナ禍はつらくもあり…でも楽しみを持って乗り越える」といった目標にした。この目標を達成するには、職員の業務負担が増える事になるが、職員の協力を得ながら角度を変え、アプローチをした結果を報告する。

取り組んだ課題

新型コロナウイルス対策といった中で突然、生活の変化が必要になってしまった。それに伴い面会・外出できない等の制限により、楽しみが大幅に減少していた。介護職員の中で「コロナ前みたく共に楽しみたい」といった思いが強くなった。多職種協議を繰り返し「今できることをやろう!そしてみんな笑顔で過ごそう!」をキャッチコピーとしたが介護部として日々業務を携わっていく中で、時間に追われてしまっていることが多く、業務量・人員不足によりスタッフの疲弊感が広がりつつあった。業務を見直し改善することで、レクリエーション・ダイバーショナルセラピーの強化に繋げ、スタッフの負担軽減を目指し、施設一丸となり業務改善に取り組む。

具体的な取り組み

- ①ソフト面の整備
- 個別ケアの充実
- ・業務改善をし、1日の介護ケアに必要な人材を配置した
 - ・食事の内容・配膳時間・時には量や回数の変更を試みた
 - ・入浴日に合わせて、介護職員の人数を調整
 - ・上記を実施する事で、日々の介護人数に余裕を持たせた
 - ・オムツ交換やトイレ誘導については、対象者に合わせたケアとした
- *かながわ認証の再取得→入居者・職員共に満足度UPに繋がる

(かながわ認証ベストセレクト20を目指す)

- ②ハード面の整備
- 各種機器の充実
- ・入浴機器について…特殊浴増設
 - ・トイレ内の配置変更(環境整備)…排泄介助物品の整備
- ICT活用
- ・電子カルテ
 - ・見守りシステム
 - ・体重測定機付きセンサー
 - ・ブログの開設

活動の成果と評価

- ・家族との面会として、リモート面会・直接面会の機会が増えた。
- ・レクリエーション・ダイバーショナルセラピーを実施することができ、ご利用者様にも職員にも笑顔が増えフロアに活気が生まれてきている。
- ・かながわ認証を取得でき、優良施設であるという承認をいただき職員は自信と責任感が生まれ始め、ご家族は安心感が持てたと声が聴かれた。
- ・ブログ開始をしたことで入職を目的とした問い合わせも徐々に増えている。
- ・ICT化や見守りシステム効果による職員間のゆとり。

今後の課題

- ・現状に満足せずに常に鋭い目線と発想を養い改革・改善への意欲を持ってこつて先を見てマンネリ化を防いでいく進化していく必要があり、そのような志を持った職員教育が必要不可欠である